ハレバレモンスターSTORY

第１章

第1話　小さな秘密

ハレバレタウンにあるアカナツ学園。
夏休みを目前に控えた放課後の教室に声が響きわたる。

『終わらなーーーーーーーーーーーーい！！』
宿題を忘れ、居残りさせられている少女の名前はリィ。
天真爛漫で明るく活発な女の子。

ガラッ

教室の扉が開いて入ってきたのはクラスメイトのホーミン。
美化委員で少し大人しい真面目な女の子。

「リィちゃん、まだ残ってたの？」
『わかんなさすぎて・・・』
「よかったら、手伝おうか？」
『本当に！？いいの？』
「うん。委員会も終わったし、あとは帰るだけだし。」
『ありがとう！』

『ほんっとに助かったよ、おかげで帰れる』
「おおげさだよ」
『そんなことないよ、ホーミンのおかげ』
『そうだ！お礼にko-ko屋のコロッケご馳走するよ！』
「えっ、いいよそんなの。大したことしてないし、それに・・」
「帰りにどこか寄っちゃダメって言われてるし・・」

『ホーミンはあそこのコロッケ食べたことある？』
「ない・・。」
『めっちゃ美味しいんだよ！』
「知ってる。みんな言ってるもん。」
『コロッケ嫌い？』
「ううん、そんなことない。興味はあるよ、でも・・」

ぐーー

「あっ・・」
『あはは、ねっお礼　させて。』
「うん」

「美味しい」
『でしょ！私ここのコロッケ大好きなんだ！』
『だから私の”たいせつ”の時に食べるの』
「たいせつの時？」
『うん、私にとって大切な日とか大事なことがあった後とか、大切だって感じた時』
「今日は？」
『全部！ホーミンと食べたいって思った』
「・・・・」
『ありがと、私のお礼というわがままに付き合ってくれて』
「ううん、私こそありがとう。すごく・・楽しい」
『これで二人は共犯だねぇ』
「えっ・・あ・・」
　彼女はイタズラっぽく笑うと、いつもの真っ直ぐな目で私に言った。
『だから２人だけの秘密ね』
「うん」

どこか憧れに近い感情を抱いていた少女と共有した小さな秘密。
ほんの少し、自分が好きになれた気がする。